

授業概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する理論的・実践的な課題について検討し、それを踏まえて自らの社会科・地理歴史教育の教育観・授業観を再構成することを目的とする。本講義は四部構成となっており、パート1では近代国家の成立と地理歴史科教育の関係性を、パート2では歴史教育の三つの教育観・授業観について、パート3では地理教育の三つの教育観・授業観について、パート4では地理歴史教育の新たな試みについて講義する。各パートの検討を踏まえて、自らの社会科・地理歴史教育の教育観・授業観を再構成していく。また、ミニレポート課題として、地理歴史教材を発掘・紹介してもらう。これまでの地理歴史教育の課題を乗り越えて、新たな地理歴史教育の展望を切り開いていってほしい。

授業計画

第1回	社会科と地理歴史教育——これまでの被教育体験のふりかえり①
第2回	近代国家の成立と地理歴史教育——なぜ地理や歴史を教えるのか？
第3回	学習指導要領の変遷と社会科授業——通史教育・地誌教育の限界性
第4回	新学習指導要領と小中高のカリキュラム構造——「地理総合」・「歴史総合」の役割
第5回	歴史教育の教育観・授業観①実証主義的な歴史教育
第6回	歴史教育の教育観・授業観②構成主義的な歴史教育
第7回	歴史教育の教育観・授業観③実用主義的な歴史教育
第8回	歴史教育観の再構成——ここまでの講義のふりかえり②
第9回	地理教育の教育観・授業観①教養教育としての地理教育
第10回	地理教育の教育観・授業観②科学教育としての地理教育
第11回	地理教育の教育観・授業観③市民教育としての地理教育
第12回	地理教育観の再構成——ここまでの講義のふりかえり③
第13回	地理歴史教育の新たな試み①歴史教育の視点から
第14回	地理歴史教育の新たな試み②地理教育の視点から
第15回	地理歴史教育の今日的意義と展望
第16回	筆記試験

到達目標

- ・地理歴史教育やカリキュラムの歴史的な変遷を踏まえて、地理歴史教育の今日的意義について説明することができる。
- ・地理歴史教育に関する理論的・実践的な課題の検討を踏まえて、自らの社会科・地理歴史教育の教育観・授業観を構成し、説明することができる。
- ・特定の条件下で、地理歴史教材を発掘し、他者にわかりやすく紹介することができる。

履修上の注意

本講義は、中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する教育法の講義である。
なお、大学の教室外での調査をすることも考慮しておいてください。

予習・復習

講義の中で紹介する関連文献や論文を読み、見識を深めることを期待します。また、ミニレポート課題の詳細については、初回の授業で示します。

評価方法

- ・筆記試験：40%
- ・ふりかえりシート：30%
- ・ミニレポートとコメントペーパー：30%

テキスト

テキスト：文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社。
文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地歴歴史編』東洋館出版社。
参考文献：渡部竜也（2019）『Doing History: 歴史で私たちは何ができるか？』清水書院。
原田智仁（2017）『平成29年版中学校新学習指導要領の展開』明治図書。
原田智仁（2019）『平成30年版学習指導要領改訂のポイント 高等学校地理歴史・公民』明治図書。
社会認識教育学会（近刊）『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』学術図書出版社。